



わが楽団の第 50 回コンサートにむけて

もし収容所の中で、われわれに使うことのできる多くの時間を正しく利用した事業があるとしたら、それはわが楽団である。その生い立ちについては第 25 回コンサートの折に明らかにしたが、それ以降音楽的技術のみならず楽器の数もうれしいことに増大している。今日の楽団の編成は次のとおりである¹。

指揮 ハンゼン一等軍楽兵曹

デュムラー海軍大尉殿	第 1 チェロ (首席奏者)
エルドニス上等書記官殿	第 1 ヴァイオリン
ヴェルナー予備役副曹長	副指揮

1 この編成表はふつう目にするものと全く違い、階級順の配列や担当楽器の記述に少し奇異を感じるが、あえてそのまま訳してある。

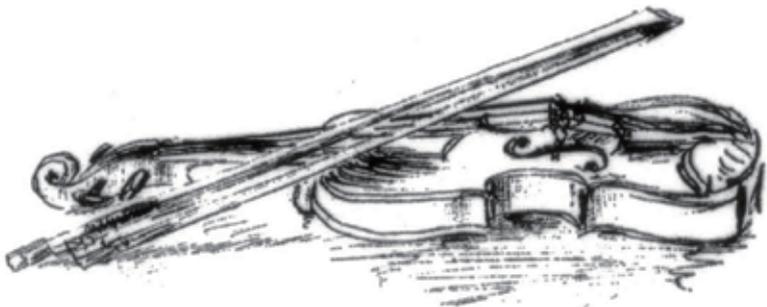
フュードリヒー等兵曹	第2 ヴァイオリン
シュテューラー一等兵曹	第3 チェロ
ハイアー二等兵曹	第1 ヴァイオリン (コンサートマスター)
ナスート二等兵曹	第1 ベース (第4 チェロ)
シュルテ二等兵曹	第2 ヴァイオリン
シュースター一等水兵	第1 フルート
ドーベ予備役一等砲兵	第2 ヴァイオリン (首席奏者)
ヘルマン一等砲兵	第1 ヴァイオリン
レックス一等砲兵	第2 ヴァイオリン
プリルヴィッツ一等砲兵	大太鼓
カイク二等砲兵	第1 ヴァイオリン
フランケ二等砲兵	第1 ヴァイオリン
ラングハイム二等砲兵	第1 ヴァイオリン
ナイツァール二等砲兵	第2 ヴァイオリン
グリューネヴェラー二等砲兵	第1 ヴィオラ
メラー二等砲兵	第2 ヴィオラ
Fr. シュミート二等砲兵	第2 チェロ
シルト二等砲兵	第2 ベース
キューリヒ二等砲兵	第2 フルート
ペルニ二等砲兵	第1 クラリネット
ブロンナー二等砲兵	第2 クラリネット
ギュンシュマン砲兵	第1 トランペット
Fl. ケラー二等砲兵	第2 トランペット
ネーフェン二等砲兵	トロンボーン
キルシュブリュッガー二等砲兵	小太鼓
ヴィーザー予備役二等水兵	足踏みオルガン

これまでにどんな仕事がなされてきたのかを知るには、記念の今日出された曲目を見さえすれば良い。まるでその音楽活動のあらゆる面の代表例を示そうと考えて編成されたように思えるのである。

ワーグナー、ウェーバー、メンデルスゾーン、マイヤベーアといった、プロの音楽家だけのオーケストラでも大変な練習を要求するような、古典的な音楽作品がプログラムに並んでいる。すべて、第50回コンサートのために新たに練習したものだ。わが楽団の演奏に慣れ親しんだ人ならもう知っているように、これらの作品はただ単に演奏するだけではなく、楽器から引き出される音色に耳を傾けることが楽しみとなるように表現しなければならない。その一方では、軽やかなメドレーや元気な行進曲なども記念コンサートのプログラムに含まれている。

音楽的な素養のなかったアマチュアを含むわがオーケストラが、疑いもなく今日あるような高みにまで達したのはどういうことなのかは、ほんとうは自身加わっている者だけが判ることである。しかし外部に居る人間にも、音楽家たちの仕事ぶりを何度か眺める機会が与えられている。あの倦むことなく行われる練習、個人個人であったり、グループであったり、全体であったりする練習によって、今日この俘虜収容所で定期的にこんなに良い音楽を聞くことができるようになったのだ。

楽団内での仕事といえば、オーケストラの指導者であるハンゼン上等軍楽兵曹の名を挙げねばならない。彼のたゆまざる努力が、楽団の今日の姿



を可能にした大きな要因である。音楽家たちをまとめ、この俘虜収容所にいるわれわれのような音楽好きの聴衆の前で、自分たちの演奏曲目を心おきなく披露できるようにしているのだ。

彼の活動は新しい楽曲の研究と指揮にとどまらず、あるときはピアノ曲から編曲をしたり、大オーケストラ向けに書かれた元のスコアを、ここの編成に合わせて修正するなどもしている。うわさでは、スコアのいくつかは記憶を元にしたとさえ言われている。

わが音楽家たちにとって、練習は必ずしも喜びばかりではない。狭い場所で共同生活をしているために、音楽の練習のおかげで一日数時間うるさい思いをし、音楽に対して大いに不平を言ったりもするような人もいる。しかしそれでも彼等の創造意欲を萎えさせることはできず、立派な音楽家になり、オーケストラを聞く価値のあるものにすべく、目標をもって迷わず練習をしてきた。楽団には定期的な日曜コンサートばかりでなく、演劇の夕べ、カバレット（寄席）、演芸の夕べ、クリスマスの祝祭など他の催しでの演奏を通じて、楽しい時間を過ごさせてもらった。

われわれにとって楽しいだけでなく、重要な過小評価してはならない要素がある。すなわち、かなり多くの戦友が楽団を通じて音楽的知識を手にしたことであって、これから先の人生で、たとえ楽団のメンバーが散り散りになってしまった後でも、この知識により余暇の時間をすばらしいものにできる。将来われわれ受動的な参加者は、時たまオーケストラのことを思い出すぐらいであろうが、メンバー自身はきっと「徳島オーケストラ」をしばしば思い出し、感謝することであろう。

戦況

ドイツ政府は開戦2年目を終わって、その占領・捕獲に関する数字を公開している。中欧諸国は前年に180,000平方キロ占領したのに対して、2年目は431,000平方キロを占領した。敵はヨーロッパで前年11,000平方キロ占領したのに対して、2年目は、22,000平方キロを占領した。中欧、ブルガリア、トルコの捕獲捕虜数は前年が1,658,000人だったのに対し、2年目には2,658,000となっている。このうち、ドイツ軍が捕らえたのは、

フランス	将校	5,947人	兵卒	348,000
ロシア	将校	9,019	兵卒	1,202,000
イギリス	将校	947	兵卒	30,000

ドイツに持ち帰った捕獲兵器は、前線ですぐに使用したものをのぞくと、大砲1,336門、機関銃3,450丁、弾薬4,700,000包、銃が1,556,000丁である。

負傷者リストによると、負傷者の90.2パーセントが前線に復帰している。死亡者は1.4パーセントで、残り(8.4パーセント)が兵役不能か除隊となっている。軍事活動は接種のおかげで疫病の影響を受けてはいない。

ドイツ参謀本部は6月30日までの戦争統計を発表した。

連合国側の損失

艦船 49隻、562,000トン

その内、イギリスの損失

艦船 40隻、485,000トン

同盟国側の損失

艦船 30隻、191,000トン

そのうち、ドイツの損失

艦船 25隻、162,000トン

イギリスの損失は全部で、戦艦11隻、装甲巡洋艦17隻、巡洋艦12隻である。同盟国側はこれ以外に商船を1,303隻(2,574,000トン)を沈めている。

収容所展望

何週間もの審問の末、エーベルツ予備役砲兵曹は逃亡未遂で3ヶ月の禁固に処せられることになった。ちょうど今は一番暑い季節で、教科書などの類を勉強や娯楽のために渡されているとはいえ、この刑期をやり過ごすのは大変なことであろう。連座していた者は幸い軍法会議を逃れたが、ニッセン海砲兵だけは別で、たぶん実行を先のぼししていただけなのに、禁固4ヶ月を食らった。審判は普通寺であり、約2週間かかった。被告たちはその都度、高松の拘置所から審問に呼び出されたのである。高松への山越えの旅行はふだんはとてもすばらしいものであっても、そのために1週間以上1.70×1.70mの独房に入らねばならないとなると、そんな旅行はする価値のあるものではない。取り立てて身体の大きくないヴェルナー副曹長でさえ、独房では窮屈だったと言っている。

8月6日かなり強烈な地震が、毎日同じように過ぎ行く生活を襲った。収容所の建物の梁は、折れ曲がりはしなかったが、目に見えるほど前後に揺れていた。この国では地震は稀なことではなく、1914年1月にも九州が地震と火山の噴火に見舞われたばかりである。日本に地震が多いことの説明は、次のようになされている。太平洋は地殻の沈み込みによって生まれたものであり、その周辺部に日本列島がある、ここは今も地殻が大きく破裂し、沈み込むゾーンを形成していて、未だ完全には固定していない。地殻の沈み込みには当然ながら地中に大きな空洞の存在が前提となるが、沈み込みの度に揺れが生じ、それが地表では地震として感じられるのである。

このところ、昼も夜もじつに騒がしい。静かなときでも、船の汽笛、汽車の汽笛、犬の鳴き声で相当神経にさわるのだが、それに三味線のペンペン鳴る音、鼓の音、やかましい拍手と万歳の声加わるのである。これを見れば、東アジア人には神経がないことが分かる。浮かれた連中がむちゃくちゃ大騒ぎしながら真夜中に町中に遊覧船を走らせても、誰も何とも思

わないのだ。この騒がしい船による遊覧が徳島での死者を記念する踊り²の最後を飾るものらしい。収容所でも、その横手をいくつか踊り手の一団が通って行ったが、その幻想的で、一部華やかな色の衣装と音楽からはほとんど死者を思い起こさせるものはない。

月光の奇妙な作用については、これまでしばしば書かれてきた。日本の秘密警察もその言によれば、毎夜ひそかに川岸の電柱の影に隠れているそうだが、日曜日の夜の満月にその作用を受けたにちがいない。ひょっとしたら幽霊を見たのかもしれない。突然衛兵に警戒態勢を取らせ、点呼のラッパが鳴った。垣根沿いの歩哨が二倍に増え、建物の入り口はすべて衛兵が見守り、鳥小屋とウサギ小屋まで調べが入った。もちろん、誰もいなくなっていなかった。退去の時、危うく腕力沙汰になるところであった。監視将校が、就寝の命令を前もって発する前に、力づくで人々を中庭から立ち去らせようとしたからである。

収容所の肉屋は、私企業から公共機関に生まれ変わった。もちろん皆の期待するのは、もっと少ない金でソーセージがもっと多く買えることである。ソーセージは、それを消費することによって公共へのささやかな奉仕となると考えるだけでも、味が増すというものである。収容所の健康状態は従来何の問題もなかったが、残念なことに、この大変な時期に赤痢が一例生じた。それ以上変わらなければよいのだが。コレラは、日本の各地の港湾で勢いを増している。幸い当地のような遠隔の島への伝染の恐れはあまりない。

ところで、本紙記者の一時的な不注意によって、本紙の発行を1週遅らさざるを得なくなった。

2 これは後に「阿波踊り」と称されるようになる徳島の盆踊りである。

図書室

この2、3週間に『コスモス』シリーズの本が新たに蔵書の仲間入りをした。これにより『コスモス』本の数はかなりのものとなっている。残念ながら、この非常に興味深く内容の豊かな読み物も、当収容所の読者の大部分にとって相応の関心を引き起こすものではないことを認めざるをえない。本を選びやすいよう、図書室にある『コスモス』の全リストを以下に掲げる。

No. 77	彗星と流星
78	石炭の森
164	勝利の細胞国家
165	大陸と海洋
198	惑星の世界
432	原始社会とくらし
433	動物の系統樹
434	ミツバチ
435	植物の感覚
436	月
448	ダチョウの戦略
449	海の魚
510	化学のロマン
607	人間に奉仕する光
608	人間と地球
609	動物と植物の相互関係
980	気候
981	ドイツの爬虫類と両生類
982	在来種の魚
983	水滴の旅

- 984 ドイツ在来種の蝶と蛾
 985 植物界の殺し屋
 986 ハイデ（荒地）と苔
 987 村と放牧地の間の植物
 988 文化と文化を持たないもの

さらに以下の新着図書がある

- | | |
|---------------|-----------------|
| ヴィート、G. | 『悪の権化』 |
| ヴェーバー、A. O. | 『口輪をつけずに』 |
| フィービヒ、クララ | 『ミュラー＝ハンネスについて』 |
| バイヤーライン、F. A. | 『冬期倉庫』 |

演奏会

8月13日の午前中にオーケストラの第49回コンサートが開催された。

曲目

- | | |
|--------------------------|---------|
| 1. 行進曲「モルトケの思い出」 | リュウデッケ |
| 2. ヘ調の旋律 | ルビンステイン |
| 3. リュウデッケの歌曲「若き頃」のパラフレーズ | フリードマン |
| 4. バレー曲『人形の妖精』幻想曲 | バイエル |
| 5. 笑劇『冗談男爵』より | W. コロ |
| a) 「もしも娘に旦那様ができたら」 | |
| b) 「小さな女の子」 | |

青島戦（3）

青島に住むたくさんの女性と子供は汽船「パクラート」に乗船し、あちこちさまよったあげく、イギリス人からの意地悪な扱いを受けながら天津に上陸した。青島に残った女性は、大部分赤十字に出向いた。全てが攻撃への備えをしていた。

日本は参戦するのか？

束縛のない市民生活の最後の自由時間をおいしい料理を食べ、冷たいビールを飲みながら過ごそうと考えた。そこで私の知っている「フルステンホーフ」という店に行った。店では薄暗がりのなか、将校、役人、商社員、予備役といった人たちがいくつかのテーブルの周りに集まって、西部戦線での最近の出来事について話し合っていた。すべて良いニュースばかりではあったが、全員胸を押さえつけられるような不安にとりつかれていた。日本は参戦するのだろうか。日本の新聞はついこの間まで、日本はドイツに敵対的な意志はないこと、日本が参戦するとすれば、それはドイツが東アジアにあるイギリス拠点を攻撃する場合だけである、と明確に書いていた。

東アジアへドイツ人参集す

町中を散歩していると、香港、上海などの外国人居留地からやってきた旧友や知り合いに多数出会った。それはまるで、東アジア各地のドイツ人がすべて青島に参集してきたかのようにであった。何人かは軍服を着ているために、当人とはほとんど気づかなかったこともあった。

受入係で

翌朝、私たちは全員決められた時間どおりに兵営に入った。ここで各人はまず受入係に出向き、所属の部隊が割り当てられた。後備役、義勇兵、兵役未経験の国民軍兵は第三海兵大隊第6中隊の所属となり、そこで訓練

を受けることになった。本来、私も兵役未経験の義勇兵なので同じくこの部隊に配属しなければならないはずであった。しかし受入係での申告の時、上海で2年間ドイツ人義勇兵中隊「ハインリヒ・プロイセン公」に所属していたことを申告したので、ただちに海軍東アジア分遣隊（O.M.D）第3中隊へ所属となった。私にとって、これはもっけの幸いであった。なぜなら、そのおかげで訓練でしごかれることがなくなったからである。

上海のドイツ人義勇兵中隊

ここで、東アジア事情に詳しくない読者により良く理解してもらえよう一言付け加えると、ドイツ人義勇兵中隊は、その名前にあるように皇帝の弟君が隊長であって、制服の肩章にはそのイニシャルがついているのだが、1891年に上海防衛のため設立されたものである。他の国々も同様の目的で義勇兵部隊を創設していた。すなわち、イングランド、スコットランド、オーストリア、ポルトガル、アメリカ、日本、中国の部隊に税関部隊、砲兵隊、騎兵隊に機関銃部隊があった。これらの部隊はひとつの義勇兵団としてまとめられ、現役のイギリス人大佐の指揮下にあった。ドイツ人部隊にはそれまで一人の大尉がいた。彼は、上海での軍役を最後として、昔は工兵大尉であったが、わが部隊の訓練に大いに功績をあげた人である。義勇兵のうち約三分の二はドイツ陸軍での軍務経験があった。兵役経験のない人たちは、訓練と兵器の扱いの教えを、兵役義務を果たした人から受けた。

第50回演奏会には2種類の特別プログラムが販売される。即ち、一部 a) 10 銭、b) 50 銭以上任意の金額である。収益は音楽家たちに回される。

「オンス」についての問い合わせに

「オンス」は英語で ounce、イギリスの重量単位で 28.3496 グラムに相当し、重量は英ポンドの 1/16 である。「オンス」は今日の重量単位の導入以前、ドイツでも使用された重量単位であった。独オンスは 2 ロット、すなわち 1/16 独ポンドであった。

「オンス」はまた、昔はいろいろな国で硬貨の単位でもあり、イタリアでは長さの尺度でもあった。しかし「オンス」が容積単位として使われたことはない。



シュピーゲル (鏡)

『トクシマ・アンツアイ
ガー』第3巻第15号
(1916年8月20日)
ユーモア付録



徳島オーケストラへ

第50回演奏会、ほんとうにおめでとう！
『トクシマ・アンツアイガー』のおじさんより



セレナード

【わがオーケストラはその記念すべき日に、自分に向かってセレナードを奏するわけにはいかないのです、われわれ「荒くれども」がその名誉ある務めをすることになった】

兄弟達よ、演奏のために手を動かし
心の内からわき出る感情とともに
できるかぎり正しく、やさしく、ちいさな音で
メロディーを流したまえ
われわれの歌のハーモニーは
|: オーケストラを褒めたたえて響く :|
音楽の指導者に賞賛と感謝を
いろいろと骨を折ったりしながら
われわれのためにオーケストラを作り上げたのだから
音楽で暮らしに彩りを添え
苦しい時間を短くするのが
|: 彼のすばらしい使命なのだ :|
われわれが故郷に戻るまで
(それがそんな先でないことを祈る)
オーケストラが榮えますよう
波に揺られるときには
ふるさとの歌の楽しい響きが
別れを告げるように周りに聞こえているだろう

東部戦線からのロイター電

8月14日から15日にかけての夜に、わが軍の見張りが敵陣中の怪しげな動きに気づいた。敵の巡察兵がたった一人で、何やら下心をもって、とある一軒家に忍び込んでいった。ただちに緊急出動をかけ、銃剣による攻撃を行った。敵はあわてふためいて退却した。こうして巡察兵のもくろみは潰え去った。

なぞなぞ

この動物は何だ？

これをずうっと捕まえようとしているのに、網の中に入ると腹をたててしまうもの。

(この動物は何か？ 答え：トビ)